NIE実践報告

1．タイトル：身近な話題に基づく自然地理学習～駿河湾地震を事例として～

2．学校名

静岡県御前崎市立浜岡中学校

3．実践者名（代表者名）

河原﨑　智

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科地理的分野　130人(4クラス)

6．単元（本時の学習課題）名

駿河湾地震をもとに、静岡県の自然の特徴について考えよう

7．目標（狙い）

駿河湾地震による静岡県市町別被害状況(2009年8月14日・静岡新聞夕刊掲載)から、県内の自然地理の特徴を考えることによって、次時以降の、世界や日本の自然地理の学習に対する興味を喚起することができる。

8．評価の視点

(1)記事をもとに、震源地からの距離と被害状況が比例していないことに気づくことができたか(技能・表現)
(2)(1)のような現象が生じる理由について、自分なりの意見をもつことができたか(思考・判断)

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「世界と日本の自然環境」(7時間)のうち、最初の1時間(学習の導入段階)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)駿河湾地震について、憶えていることを挙げてみよう(5分)
(2)新聞記事を読み解こう(3分)
(3)新聞記事から、駿河湾地震の被害状況の特徴を読み取ろう(12分)
(4)記事を見て、疑問に思ったことを挙げてみよう(5分)
(5)「榛原郡吉田町」の被害が少なかった理由は何だろう(20分)
(6)本時の学習をまとめよう(5分)

【留意点】
・(3)～(5)の学習では、班やクラスの仲間と話し合う時間を多分に設け、生徒各自がより高次の意見を見出すことができるようにする。
・新聞記事は生徒全員に配付し、各自が自分のペースで新聞を読み解けるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

本校の学区は、駿河湾地震で震度6弱の強い揺れを観測しており、生徒の多くがこの地震を克明に記憶している。そのため、生徒は自らの体験と重ね合わせながら、学習に対する高いレディネスをもって学習を展開することができたようである。

12．成果と課題

生徒にとって身近な話題を教材化したことは、学習内容と生徒を結び付ける有効な手段となりえた。
他方、この実践は、たまたま本実践を展開した年に大きな地震があったからこそ実践できたものであり、普遍性という点では非常に弱いと考える。NIE全体に言えることでもあるかもしれないが、本実践をより質の高いものにするためにも、実践の普遍性や追実践可能性の確保が今後の重要な課題といえよう。